

市川市消防委員会資料

日 時：令和5年1月31日（火）

10時00分から

場 所：市川市消防局 5階ホール

目 次

1 議 題

令和 5 年度市川市消防局の主な施策（案）について (P 1)

2 報 告

(1) 令和 4 年消防出動状況について (P 4)

(2) 第 5 0 回全国消防救助技術大会の結果について (P 6)

(3) 第 2 9 回全国消防操法大会の結果について (P 7)

3 その他

消防局における今後の主な行事予定について (P 9)

【議題】

令和5年度 市川市消防局の主な施策（案）

施 策	施策の内容	主な担当課
消防施設整備の推進	<p>消防庁舎等の施設は、重要な消防防災拠点施設としての機能を有しており、消防業務の遂行に支障を来すことなく、その機能や設備を継続的に維持、管理するため、計画に基づき整備、改修を行う。</p> <p>また、行徳地区の消防防災機能の充実強化を図るため事業計画を進めて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防局・東消防署合同庁舎ホース乾燥塔改修工事 ・ 西消防署浴室改修工事 	企画管理課
消防車両等の整備の推進	<p>消防車両等の更新計画に基づき、車両等の整備、更新を行い、消防活動体制の充実強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高規格救急車の購入 2台 ・ 連絡車の更新（リース契約） 1台 	企画管理課
消防指令業務共同運用の推進	<p>平成25年4月に6消防本部（市川市、松戸市、野田市、流山市、鎌ヶ谷市及び浦安市）で共同運用を開始した消防指令センターが、令和3年2月から新たに4消防本部（習志野市、柏市、八千代市及び我孫子市）を加え、10市による「ちば北西部消防指令センター」として運用を開始し2年が経過する。</p> <p>引き続き、市民サービスの向上を目指し、共同指令センターとの連携及び消防指令業務の充実を図る。</p>	指令課
消防団及び婦人消防クラブの充実強化	<p>消防団は、1団本部、4方面隊、23個分団の総数330名の消防団員で組織され、火災出動をはじめ、自然災害や大規模災害等において、市民の生命、身体及び財産を守る崇高な使命を持った欠かせない存在である。</p> <p>このようなことから、消防団員の拡充に努め、装備や訓練を充実させ、地域防災力の推進を図る。</p> <p>また、婦人消防クラブは、現在14支部で組織され、総数269名の会員は、一般家庭からの火災防止と大規模災害時における地域の防災リーダーとして活動するために、初期消火や応急救護等の技術を修得し、防災訓練等において指導を行うなど、地域に密着した活動を行っている。今後も地域の中心的存在として、活動内容の充実や組織体制の強化を図る。（消防団員数・婦人消防クラブ員数・令和5年1月1日現在）</p>	警防課

施 策	施策の内容	主な担当課
火災予防対策の推進	<p>市民への防火思想の普及啓発を図るため、消防訓練や防火管理講習会の機会を捉え、また、広報いちかわ、こちら119等の広報紙や市公式ウェブサイトを活用し、火災予防広報活動を実施していく。</p> <p>さらに、春季、秋季全国火災予防運動期間中にイベント等を開催するなど、積極的に火災予防対策の推進を図っていく。</p>	予防課
訓練・研修の充実	<p>近年、災害は、多種多様化、激甚化及び頻発化しており、また、近い将来には、首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の切迫性も懸念されている中、市民の「安全・安心」を守るため、各種訓練の充実を図るとともに、研修・講習等への職員の参加等を積極的に推進し、職員の自己啓発意欲及び資質の向上を図る。</p>	消防総務課 予防課 警防課 救急課
救急需要対策の強化	<p>令和4年の救急出動件数は、過去最多を記録するなど、救急需要は増加の一途を辿っており、救急車の適正利用を推進することは喫緊の課題となっている。優先すべきは市民の生命、身体であることから、市民がためらわずに救急車を要請すべき事項を普及するとともに、市民が救急車を呼ぶかの判断に迷った時のために、各種救急電話相談及び緊急度判定アプリ事業を積極的に広報し、救急車の適正利用を推進していく。</p>	救急課
救急業務高度化の推進	<p>救急業務の高度化を推進するため、メディカルコントロール体制（①医師による救急救命士の特定行為に対する指示体制。②救急隊員に対する指導助言体制。③医学的観点からの救急活動に対する事後検証体制。④救急救命士の教育研修体制。）の充実強化を推進し、救急隊員の資質及び技術の向上を図る。</p>	救急課
応急手当普及啓発業務の推進	<p>突然の心肺停止に対しては、救急車が到着するまでの間に、そばに居合わせた人が応急手当をすることにより、救命効果が期待できるため、市内在住、在勤及び在学の幅広い年齢層の市民等に、体験型を主とした応急手当普及啓発活動を、積極的に推進している。また、コロナ禍によりWEB講習会も徐々に普及が進み始めたことから、今後は市民の生活スタイルに応じた講習会の推進を図る。</p>	救急課
消防・救助体制の充実強化	<p>多種多様化する災害に対応するため、警防隊、救助隊及び救急隊が連携した消防救助技術や能力の向上を図ると共に、災害用ドローンを効果的に活用し、総合的な消防救助体制の充実強化を推進する。</p>	警防課

○ その他の推進事業

施 策	施策の内容	主な担当課
住宅用火災警報器の設置並びに維持管理普及啓発の推進	<p>住宅用火災警報器は、設置してから10年が経過すると、電池切れや電子部品の寿命で、火災を感知しなくなることがあるため、10年を目安に交換が必要となる。住宅用火災警報器の交換時期を含めた設置維持管理について、継続的に広報を実施していく。</p> <p>例年、全国的に住宅火災における高齢者の死者の割合が高い。住宅火災による犠牲者を抑制するため、各種イベントや消防訓練並びに市公式ウェブサイトや広報誌を活用して、住宅用火災警報器の有効性について情報発信し、当該機器の設置率の向上、維持管理を図っていく。</p>	<p>予防課</p>
防火・防犯対策等の推進	<p>地域における「安全・安心」を確保するため、消防職員、消防団員及び婦人消防クラブが三位一体となり、自治会等と連携を密にし、防火、防犯のパトロール等を推進していく。</p> <p>また、毎年火災原因の上位には放火（放火の疑いを含む）が挙げられる。この放火火災を防ぐためには、地域全体で「放火されない、させない環境づくり」に取り組む必要がある。このためには、家の周りに燃えやすい物を置かない、ごみ出しのルールを徹底する等、具体的な対策を行うよう、広く市民に啓発を行う。</p>	<p>警防課 予防課</p>
消防応援・協力体制の強化	<p>首都直下地震や大型化している台風、局地的豪雨及び土砂災害など複雑多様化する災害に備え、千葉県消防相互応援協定に基づく訓練や緊急消防援助隊の訓練に積極的に参加し、広域応援体制の強化を図る。</p>	<p>警防課 救急課</p>
安全衛生管理体制の充実と健康管理体制の推進	<p>職員の意見や提案を取り入れ、消防署所をはじめとする各施設の環境整備を図るとともに、災害活動や訓練時における安全管理及び登退庁時における事故防止の徹底を図る。</p> <p>また、職員の体力向上への取り組みや、精神的ストレスが溜まらない職場環境づくりに努め、心と体の健康バランスの充実を推進するとともに、職場におけるハラスメントを防止するため、職員の意識の更なる向上を図る。</p>	<p>消防総務課</p>

【報告1】

令和4年 消防出動状況（令和4年1月1日～令和4年12月31日）

令和5年1月10日現在（概数）

1 諸出動状況

区分 \ 年別	令和4年	令和3年	増減数	増減率
火災	72	70	2	2.9%
その他	909	916	-7	-0.8%
PA連携	3,465	2,757	708	25.7%
風水害	1	1	0	0.0%
応援	25	26	-1	-3.8%
救助	481	405	76	18.8%
救急	27,114	22,965	4,149	18.1%
計	32,067	27,140	4,927	18.2%

2 火災発生状況

区分 \ 年別	令和4年	令和3年	増減数	増減率
火災件数	72	70	2	2.9%
火災種別	建物火災	46	4	8.7%
	林野火災	0	0	0.0%
	車両火災	3	4	133.3%
	航空機火災	0	0	0.0%
	船舶火災	0	0	0.0%
	その他火災	21	-6	-28.6%
焼損棟数	60	61	-1	-1.6%
り災世帯	51	47	4	8.5%
り災人員	112	95	17	17.9%
焼損床面積(m ²)	892	1,133	-241	-21.3%
焼損表面積(m ²)	70	264	-194	-73.5%
損害額(千円)	127,501	128,976	-1,475	-1.1%
死者	4	5	-1	-20.0%
傷者	24	17	7	41.2%

3 火災原因別状況

原因別 \ 年別	た	こ	炉	ス	こ	ポ	電	電	火	マ	た	灯	放	そ	不	調	合
	た	こ	か	ト	こ	イ	電	電	あ	マ	た	火	火	の	明	査	計
令和4年	12	9	0	2	0	2	3	13	0	2	3	0	5	9	4	8	72
令和3年	7	9	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	17	16	6	0	70
増減数	5	0	0	2	0	2	-1	8	-2	-1	3	-1	-12	-7	-2	8	2

4 救急出動状況

区分	令和4年		令和3年		増減数	増減率
	出動数	構成比	出動数	構成比		
火 災	57	0.2%	48	0.2%	9	18.8%
自然災害事故	1	0.0%	15	0.1%	-14	-93.3%
水 難 事 故	18	0.1%	13	0.1%	5	38.5%
交 通 事 故	1,353	5.0%	1,320	5.7%	33	2.5%
労働災害事故	203	0.7%	204	0.9%	-1	-0.5%
運動競技事故	94	0.3%	60	0.3%	34	56.7%
一 般 負 傷	4,029	14.9%	3,522	15.3%	507	14.4%
加 害	137	0.5%	92	0.4%	45	48.9%
自 損 行 為	197	0.7%	180	0.8%	17	9.4%
急 病	18,076	66.7%	14,792	64.4%	3,284	22.2%
そ の 他	2,949	10.9%	2,719	11.8%	230	8.5%
計	27,114	100.0%	22,965	100.0%	4,149	18.1%

5 消防相談出動状況

区分		署別				合 計
		東 署	西 署	南 署	北 署	
蜂 の 駆 除	ス ズ メ バ チ	0	2	0	5	7
	ア シ ナ ガ バ チ	6	2	1	0	9
へ び の 駆 除		1	0	1	4	6
動 物 の 保 護 (捕 獲)		19	2	8	8	37
動 物 の 死 骸 除 去		3	4	11	8	26
そ の 他	身体障がい者の介護協力依頼	26	13	50	17	106
	警報器等に関すること	4	9	14	5	32
	花火・焚火等の放置、苦情	1	4	4	15	24
	異臭・異音の調査	2	3	4	1	10
	消防設備等に関する相談	4	1	3	1	9
そ の 他		28	31	16	18	93
合 計		94	71	112	82	359

【報告2】第50回全国消防救助技術大会の結果について

「概要」

第50回消防救助技術関東地区指導会を勝ち抜いた、「複合検索」、「基本泳法」の2種目2名の隊員が、第50回全国消防救助技術大会へ出場しましたので、その結果について報告いたします。

1 開催日時

令和4年8月26日（金）9時00分から

2 開催場所

東京都立川市泉町1156-1 東京消防庁第八消防方面訓練場

3 出場種目及び出場隊員

(1) 複合検索

西消防署大洲出張所 消防士 小林 翔易

(2) 基本泳法

西消防署大洲出張所 消防士 篠原 優太

4 大会結果

(1) 複合検索 25人中 8位

(2) 基本泳法 26人中 6位



【報告3】第29回全国消防操法大会の結果について

「概要」

全国消防操法大会は、各都道府県の代表、ポンプ車の部21チーム、小型ポンプの部24チームの消防団が集結し、消防操法の演技を競い合う大会です。

この度、市川市消防団第6分団が、千葉県代表として、第29回全国消防操法大会に出場しましたので、その結果について報告いたします。

- 1 開催日時 令和4年10月29日（土）9時00分から
- 2 開催場所 千葉県消防学校（市原市菊間783-1）
- 3 出場種目 ポンプ車の部（第6分団）
- 4 大会結果 【団体の部】

順位	ポンプ車の部
優勝	中種子町消防団（鹿児島県）
準優勝	市川市消防団（千葉県）
〃	穴水町消防団（石川県）
〃	北上市消防団（岩手県）
優良賞	上越市消防団（新潟県）
〃	階上町消防団（青森県）
〃	福山市消防団（広島県）
〃	和気町消防団（岡山県）
〃	松江市消防団（島根県）
〃	葛城市消防団（奈良県）

【個人の部】

部門番員賞	隊員名
ポンプ車優秀選手2番員	三谷 昌秀

《第29回全国消防操法大会》



【その他】消防局における今後の主な行事予定について

(令和5年1月31日現在)

日 時	場 所	行事名	備 考
2月2日～3日	千葉県消防学校他 (市原市)	令和4年度 千葉県消防広域応援隊合同訓練	
5月下旬	大野消防訓練場	令和5年度市川市消防団消防操法大会	
5月下旬	千葉県消防学校 (市原市)	第48回消防救助技術千葉県大会	
6月中旬	開催場所未定	第48回消防救助技術千葉県大会 「水上の部」選考会	
6月	松戸市	第42回東葛飾支部消防操法大会	
7月22日	千葉県消防学校 (市原市)	第59回千葉県消防操法大会	
7月27日	栃木県	第51回消防救助技術関東地区指導会 (陸上の部)	
7月中旬	茨城県	第51回消防救助技術関東地区指導会 (水上の部)	
7月下旬	北消防署 大野消防訓練場	こどもの消防広場サマーフェスティバル	